

こむぎ通信

令和5年 第6号

雪腐病の防除は根雪（長期積雪）の前に行いましょう！

根雪直前の防除が難しい場合は、11月中旬～下旬でも防除効果が得られます。

根雪始めの平年は12月26日です。

1 雪腐病防除のポイント

- ・雪腐病は積雪下で小麦を枯らす重要病害で、積雪期間が長いほど被害が大きくなる。
- ・薬剤の散布時期は、一般的に根雪直前が最も効果的であるが、11月中旬～下旬の散布でも防除効果が得られる。
- ・散布直後に降雨や降雪で流されると効果が劣る可能性があるため、天候を見計らって散布する。また、散布後に一度積もった雪が溶けても、再散布の必要はない。
- ・雪腐褐色小粒菌核病や、雪腐黒色小粒菌核病等の「菌核」を形成する雪腐病の防除には、適用病害虫に「雪腐小粒菌核病」の記載がある薬剤を使用する。（フロンサイド水和剤、バンタック水和剤75等）



R4.3.25 撮影 雪腐病発生ほ場

【参考 雪腐病の防除に使用できる薬剤】

農薬名	適用病害虫	希釈倍数	散布液量	使用時期	使用回数
ベフラン液剤25	紅色雪腐病	1000倍	60～150 μ l/10a	根雪前	3回以内 (但し、出穂期以降は1回以内)
ベフキノン水和剤	紅色雪腐病 雪腐小粒菌核病	300倍	100～200 μ l/10a	根雪前	2回以内
フロンサイド水和剤	紅色雪腐病 雪腐小粒菌核病	1000倍	60～150 μ l/10a	根雪前	2回以内
バンタック水和剤75	雪腐小粒菌核病	750～ 1500倍	60～150 μ l/10a	根雪前	2回以内
リゾレックス水和剤	雪腐小粒菌核病	1000～ 1500倍	60～150 μ l/10a	根雪前	2回以内

2 ひとくちメモ ー麦踏みについてー

- ・早播きや高温による茎葉の伸び過ぎや凍霜害の恐れがある場合に10月下旬～11月中旬及び茎立ち前の3月下旬～4月上旬を目安にローラー等で踏圧する。
- ・麦踏みの効果としては、凍霜害の防止、土壤水分の均一化、耐倒伏抵抗性の付与、徒長抑制による茎の早立ち防止がある。
- ・ただし、遅播きの場合やほ場が重粘土質で多湿条件下にある場合はかえって生育が阻害されるため行わない。